

BPT(バイオマスプロジェクトチーム)だより No.60

<http://www.pref.chiba.jp/kankyou-kendo/kankyou/junkan/biomass/index.html>

平成24年2月13日

バイオマスプロジェクトチーム
(環境生活部資源循環推進課)

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

日ごろから、バイオマス利活用の推進にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

バイオマスの利活用については、昨年2月15日に公表された総務省の政策評価において、利活用施設の設置数の増加などバイオマスを利活用するための環境が整備されつつあるものの、期待されている効果が発現していない、CO2削減効果を十分把握していない等、厳しい評価がくだされました。

しかし、翌月11日に発生した東日本大震災の福島第一原子力発電所事故の影響により、再生可能エネルギーの一つとしてバイオマスが注目され、期待が集まりました。

県におきましては、昨年7月に「バイオマス立県ちば推進方針」(平成15年5月策定)に代わる「千葉県バイオマス活用推進計画」を新たに策定いたしました。

総務省の政策評価の指摘を踏まえた上で、今年も「千葉県バイオマス活用推進計画」の達成に向け取り組んでまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

1. トピックス

○セメントキルン向け堆肥燃料の供給を開始

畜産堆肥の燃料化に関する研究を進めている畜産堆肥燃料化研究推進会議(太平洋セメント株式会社、千葉県他)では、堆肥燃料の活用に向けて具体的な供給スキームの検討を進めております。

主軸となるスキームは、セメントキルン向けに石炭代替燃料として供給するというものです。関係機関と調整を進め、10月25日からセメントキルン向けの堆肥燃料の供給を開始いたしました。堆肥燃料は旭市内の養豚農家で生産されたもので、以後、毎週1便ずつ定期的に太平洋セメント埼玉工場(埼玉県日高市)に供給しております。

この取組では、環境省のカーボンオフセット制度(J-VER)を活用する予定です。この取組で排出権を生み出し、排出権を販売することで経費を補填する計画です。



アームロール車を利用した堆肥燃料の輸送



太平洋セメント(株)埼玉工場のセメントキルン

○エコフィード利用推進研修会（第1回）

千葉県畜産協会主催の第1回エコフィード利用研修会が11月16日に千葉県森林会館で開催されました。

本研修会は、食品残さ排出元とエコフィード製造業者とのマッチングに主眼を置いたもので、食品製造業者、流通業者、エコフィード製造業者を中心に畜産農家代表者、研究、行政関係者等が出席しました。

日本大学生物資源科学部の佐伯講師が「食品残さの飼料化をさらに推進するために」というテーマで講演を行い、その後、千葉県エコフィードコーディネーターの司会により、情報交換が行われました。

食品残さ排出業者とエコフィード製造業者のマッチングを目指した催しは、全国的に見ても珍しい取組です。食品製造業者とエコフィード製造業者の間の理解を深める機会になりました。



2. 国との連携

○ 食品廃棄物発生抑制・CO₂排出削減セミナー

(社)日本有機資源協会主催の食品廃棄物発生抑制・CO₂排出削減セミナー(関東地域)が11月11日に東京都新宿区で開催されました。

エコフィードに関する取組を推進している中、排出企業サイドの食品廃棄物の発生抑制に対する考え方や具体的なアクションに触れ、今後の動向を考える機会となりました。

本セミナーにおいて、全国に販路を持つ中堅食品メーカーの事例紹介がありました。

この事例は、発注管理のコントロールにより無駄の減少に取り組み、発注ロスによる滞留在庫を減らし、最終的に廃棄商品をなくしたというものです。原価管理の観点からも称揚されるべき事例ですが、生産管理の精密化によるロス削減は、エコフィード原料の減少を予感させるものでした。

○ 平成23年度エコフィード全国シンポジウム

12月8日に茨城県つくば市において、(独)農業・食品産業技術総合研究機構、畜産草地研究所主催のエコフィードに関する全国シンポジウムが開催され、全国から140名を超える参加がありました。

今回のシンポジウムは、「エコフィード利用畜産物の新たな展開」というテーマで、エコフィード認証制度を食品残さの活用に結び付けようというものです。

基調講演では、畜産・飼料調査所、御影庵の阿部亮氏がエコフィードに関するこの10年を振り返り、今後の方向を示しました。地域での取組について、特に中小家畜でのエコフィード利用についてスーパーバイザーの必要性を指摘しました。千葉県で現在進めているエコフィードコーディネーター設置事業は、マッチングとともにエコフィード利用に関する技術指導も目指しており、阿部氏の提唱するスーパーバイザーとしての機能を指向したものです。

同じく基調講演で日本大学の川手准教授は、品質保証制度と畜産物の高付加価値化ということでフランスの事例を紹介しました。

基調講演に続き、エコフィード認証制度、エコフィード利用畜産物認証制度、エコフィードの安全確保について一般講演が行われました。

話題提供では、洗米排水の飼料利用技術、エコフィードを活用した鶏肉生産、DDGS（トウモロコシからエタノールを精製した残さ）について紹介がありました。千葉県千葉農業事務所の小俣技師は、エコフィードを活用した鶏肉生産ということで、千葉県畜産総合研究センターで実施した肉用鶏に対するエコフィード給与試験について紹介しました。

3. 市町村等との連携

○ 第7回市原市バイオマス利活用推進協議会

平成21年度から放置竹林の利活用を中心に検討を行う「市原市バイオマス利活用推進協議会」が10月11日と1月30日に行われました。市内の河川環境整備により発生する竹の利活用方法の検討が行われ、今年度は、緑のカーテンの支柱利用や竹チップ混合の燃料オガライト・竹バイオマスプラスチックの試作等の検討が行われました。



竹チップ混合オガライト

○ 平成23年度第3回南房総市域木質バイオマス利活用検討会

1月25日に「南房総市域木質バイオマス利活用検討会」が行われました。今年度は市内の施設園芸農家（ハウスビワ、カーネーション）を対象とした木質バイオマス暖房機の利用モニター調査事業が行われており、現地視察も行われました。



ハウスビワ生産者のモニター状況

○ 南房総市市民環境学習会

1月28日に「南房総市市民環境学習会」が千倉保健センターで開催され、環境保全とバイオマスと称して、当課からバイオマスが環境に果たす役割の説明と県内におけるバイオマスの取り組みの紹介を行いました。



市民学習会の様子

4. 関連業務

○千葉県エコフィードコーディネーター設置事業 第2回利用推進会議

本年度2回目のエコフィード利用推進会議（構成員：エコフィード製造業者、畜産農家、研究機関、関係行政機関等）が1月22日に開催されました。今回の推進会議は旭市の（有）ブライトピック千葉溝原工場において開催され、食品残さを利用した液状飼料製造工場を視察した後に意見交換を行いました。

本工場では多様な原料が使用されていますが、包装されているものは丁寧に包装を剥がし、固まった餅はハンマーミルで砕く必要があるなど、原料に応じて多大な手間をかけています。更により質の高い飼料を調製するために飼料用米を購入して利用するなど、高品質の豚肉生産に向けた努力が偲ばれました。

また、本工場では、地域との共生を目指して障がいを持つ方の積極的な雇用に努めています。生き生きと働く作業員の方々の姿が印象的でした。

意見交換においては、原料コストが上がりエコフィードを利用する経済的なメリットが低下していることが指摘されました。食品残さをエコフィードとして利用する場合、

焼却や堆肥化处理に比べて多額のコストが掛かかります。排出元企業、消費者の方々に対してエコフィードの製造と利用に関する正しい理解をしていただけるよう関係機関が一丸となって今後も努力してまいります。

○ 第6回再生可能エネルギー世界展示会

12月5日～7日の3日間、幕張メッセにおいて開催された第6回再生可能エネルギー世界展示会(再生可能エネルギー協議会主催)において、新エネルギーとして畜産堆肥燃料に関する取組を千葉県と太平洋セメントが展示・説明いたしました。

企業関係者を中心に研究機関や大学などから多数の方々にお越しいただきました。

現在、千葉県畜産協会を事務局として、堆肥燃料を活用したオフセット・クレジット(J-VER)の販売の準備を進めております。この機会を活用して、企業関係者の方々に対しては、J-VERの販売に向けたPRも行いました。



5. 普及啓発活動

○ 木質プラスチック普及活動の実施

下記イベントにおいて、千葉県産木質プラスチック製品の普及等バイオマスの啓発活動を行いました。

- ・10月16日：少年自然の家まつり(県立水郷小見川少年自然の家)
- ・10月29日：青葉の森公園秋のフェスティバル(県立青葉の森公園)
- ・11月3日：農林総合研究センター公開デー(農林総合研究センター)
※これまでの活動の中で、一番多くの方に来ていただきました。この場をお借りして関係者の方々にお礼申し上げます。
- ・11月5日：生涯学習フェスティバル(君津市生涯学習交流センター)
- ・11月16～18日：次世代ものづくり技術展(東京ビックサイト展示場)
- ・11月23日：いきいきフェスタTAKO2011(多古町コミュニティーセンター)
- ・11月30～12月2日：アグリビジネス創出フェア(幕張メッセ)



「アグリビジネス創出フェア」での展示の様子